

① 会田麗王 人文学部 法経政策学科 1年

② ベトナム国家農業大学 8月20～9月3日

③ 日本語教室での活動内容として、まず平仮名がすでに分かっていて簡単な日本語の文章を勉強するアドバンスクラスの人達と、平仮名から勉強を始めるビギナークラスの人達に分けて授業を行いました。アドバンスクラスは朝の授業と夜の授業があり、夜の授業ではベトナム人の先生が学生全員に日本語の文法を詳しく説明して、自分たち日本人は座っている学生の間に入り、疑問点などを個別に対応していました。また授業の中で、いきものがかりの「ありがとう」の歌詞を覚えてもらい、授業の最後にみんなで歌いました。また、ビギナークラスでは自分を含めた日本人6人がそれぞれベトナム人学生5～6人に教えていましたが、教える内容はそのグループによって様々でした。自分のグループでは、ベトナム人の学生が日頃使っている「みんなの日本語初級」という教科書を使って、教科書の各章に出てくる単語をみんなで発音し、意味を確認したらその単語を使って簡単な文章を作り、学生1人1人に自分で作ってもらった文章を発表してもらいました。ベトナム人のユニークのある文章のおかげでみんなで楽しみながら日本語を勉強することができました。

④ 授業以外の時間は、現地の優しい学生のおかげでとても有意義なものにすることができました。午前中の授業が終わると、お昼ごはんを食べるために僕たちを色々な店に連れて行ってくれたり、夜の授業が終わると、みんなで豪華な食事を囲んでわいわい騒いだり。休日はみんなでハノイの市街地へ行き、有名な名所を見て歩いたり、おいしいスイーツを食べたりしました。また、自分が帰国する日にはバイクで陶器を作りに行き、とても充実した休日を過ごすことができました。

⑤ 自分はこのプログラムに参加して、異文化というものを肌で感じるすることができました。まず自分が一番印象に残ったところは、現地の学生のチャンスをものにしたいという貪欲さです。授業を毎日していく中で、日々この貪欲さに感心させられていました。授業中、日本語を分かりやすく教えるために自分が書いた紙も、現地の学生の間で取り合いになるほどでした。また、前日に習った単語や文法を使って積極的に会話をしようとする姿勢に、自分も見習わなくちゃ。といつも思っていました。

⑥ 自分はベトナムに行くにあたって、英語でコミュニケーションをしようと考えていましたが、実際現地に行ってみると自分のスピーキングやリスニングの力が通用せず、すこし悔しい思いをしました。しかし、ジェスチャーなどで必死に伝えると意外と分かってもらえて、改めて自分の意思を相手にどうにかして伝えようとする。ということの大事さに

気づくことができました。また、授業中に学生から「に」と「を」と「の」の使い方を聞かれたときにはうまく説明することができず、ホテルに帰った後にネットなどで調べ、次の日にその学生に説明をするということがあり、普段何気なく使っている日本語を教えることの難しさに戸惑いを覚えました。

⑦ ベトナムでの日々は、日本には決して味わうことができないような驚きと発見の毎日でした。自分はこのプログラムに参加し、ベトナムの学生と一緒に生活をしていく中で、ベトナム人の国民性に少し触れることが出来たのかなと思います。いつも明るく、素直で、勤勉で何事にも一生懸命取り組む様子は、いつも自分に元気を与えてくれ、自分もベトナム人のように明るく前向きに目標に向かって頑張ろうと思うことができました。そして自分は日本語チューターとして、形式上「教える」側としてベトナムに行きましたが、今こうして振り返るといろいろな面で「教わる」ことのほうが多かったのではないかと思います。また、外国の同世代の学生と教育を通じて有意義な交流ができ、この 2 週間という短い期間ではありましたが苦勞したことも含め、一生忘れることができない思い出となり、本当に貴重な体験ができたと思っています。国際交流室の皆様、行動をともにした山大的学生、ハノイ農業大学の学生に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。 **Cảm ơn bạn!**

